

「 命を守るためには 」

高知県 黒潮町立南郷小学校 5年 ^{むらかみ}村上 ^{はるか}陽花

わたし達の家族は、去年の9月19日に台風16号のえいきょうで、土砂くずれを経験しました。その日は、風はあまりふいていなかったけれど、雨はザーザーふり続けていました。大雨こう水けい報も出されていて、お父さんは仕事で管理している公園の道路が水につかったので、対応していました。わたしは、家の南のまど側の机で本を読んでいた。二人の弟達は、紙を望遠鏡にして川の様子を見張っていました。

その時です。

「ダーンー！！」

というはげしい音がしました。何が起こったのかが分からないくらいの大きさの音でした。

私は、

「ぎゃあー。」

と言って真っ先にとりかかるとなりのたたみの部屋までにげました。お母さんも弟達もみんなおどろいていて、特に1才の弟はこわくて泣いていました。お母さんが、

「土砂くずれやー。」

と大きな声でみんなに知らせました。わたしは、こわくてドキドキしました。ずっと（どうしよう！どうしたらいいがあ）と思いました。お母さんが、

「はるか、落ち着いて、だいじょうぶやけん。」と落ち着かせてくれたけれど、わたしの頭の中は、（またくずれたらどうしよう。）という気持ちがまだ、ぐるぐると回っていました。お母さんがお父さんに、土砂がくずれたことその後どうするのかなどを電話で話していました。

その後すぐに、もう一度土砂がくずれてきました。1回目の土砂くずれよりは、弱かったと思います。その時、お母さんが

「ひなんするで一ふとんとか、うわぎとか車に積んで。」

と早口で言いました。げん間のまどは土でおおわれていて出れなかったので、東のまどから、大きいそで外へ荷物を運びました。山から土砂が一気にくずれているのを見るたびに（またくずれたらー）という不安が強まりました。でも、家まで土砂が入ってこなくてよかったし、みんなが無事にひなんすることができたので安心しました。

加持の体育館にひなんして、昼ぐらいに家に帰れました。そしたら、地域の人や消防団が様子を見に来ていてガス管が切れていないか確かめてくれました。その後、ブルーシートや、すなの入った重しを持ってきて、くずれた所へブルーシートをきれいに張ってくれました。さすが消防団だからこそできたのだなあと感じました。それにTV局の方が土砂がくずれている風景を写真に写していました。

昼飯を食べてから少しして、ユンボや関わりのある人達がたくさん来て、くずれた土をのける作業を、一生けん命してくれました。土は家のげん間、そして庭中に流れこんでいました。でも、ユンボやスコップで土をのけ、水を何回も流してきれいにしました。地域の人や、同級生も手伝ってくれたおかげで、あっという間に土砂がくずれる前の家のようにきれいになったので、うれしかったです。

最近、大分県や熊本県の多くの場所で土砂災害が起こっているのをテレビで見ました。高い山から土砂がドドーとくずれ落ち家がたおれていて、すごくこわい思いと悲しい思いをしたらろうなと思いました。ひなんしている人の中には、けがをしている人、食べ物がなくて苦しんでいる人などがいて、自分も体験していたのでそこにいた人達のつらさや大変さが分かりました。

そして、経験したり、テレビで見たりした土砂災害から改めて自然の力の恐しさに気づきました。土砂災害は人間に怖い思いをさせるし、死ぼう者も出るから、ぜったいに起こってほしくないけれど、土砂災害が起こることは、自然が起こしていることだから仕方がないと思います。でもわたし達には、土砂災害から命を守るためにできることが、少しでもあるのではないかと思います。

例えば、落ちついて行動したり、ひなんした後の食べ物、飲み物、いざという時のための道具を備えたり、土砂災害についての学習をしたりすることです。

そして、みんなで助け合おうと、一人でも人が助かるかもしれないし、食べ物も分け合えます。人間どうしの関わりも深まり、みんなが平和に生きれると思います。

私は、大切な家族を守るために、日ごろから正しい指示をしたり、土砂災害の勉強をしっかりとしたりして地域の人達とも助け合うことを忘れずに、毎日を送っていきたくたいです。